

平成30年1月25日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 古市保志

副査 齋藤正人

副査 根津顕弘



今般 *Citra Fragrantia Theodorea* にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 Molecular Detection and Evolutionary Study of Oral Veillonella Species in the Saliva of the Children
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 *Citra Fragrantia Theodorea* は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査	古市保志
副査	齋藤正人
副査	根津顕弘



氏 名 Citra Fragrantia Theodorea

学位論文題目 Molecular Detection and Evolutionary Study of Oral Veillonella Species in the Saliva of the Children

以下本文（15行目から1000字以内）

*V. Atypica*, *V. denticariosi*, *V. dispar*, *V. parvula*, *V. ramosae*, *V. tobetsuensis* などの Oral *Veillonella* species は、初期のプラーク形成に大きな役割を果たすことが知られているが、それぞれの菌種の役割の詳細については明らかにされていない。また、口腔内には未分類の *Veillonella* が存在することも知られているが、それらの系統学的な特徴も明らかにされていない。今回の研究では、107名のタイの児童から唾液サンプルを採取し、口腔衛生状態に応じて良、可、不良の3グループに分け、それぞれのサンプルにおける異なる *Veillonella* 種の検出頻度を比較し、口腔内衛生状態との関連を調査している。その結果、不良グループでは、*Veillonella* が、良のグループの2倍多く、また、不良の児童に *V ramosae* は少なく、*V. parvula* が多く、良好な児童には *V ramosae* が多く、*V. parvula* は少ないことが明らかとなり、*Veillonella* の各菌種の占める割合が口腔衛生の指標となる可能性が示唆された。また、この集団から検出された未分類の23種を系統学的に分類した3群について、2群は *V. parvula* に近く、1群は、*V. dispar* と *V. atypica* に近い菌種であることが明らかにされた。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査	古市保志
副査	齋藤正人
副査	根津顕弘



氏 名 Citra Fragrantia Theodorea

以下本文（10行目から200字以内）

本研究では、タイの児童の唾液解析結果に基づいて、口腔衛生状態によって各 *Oral Veillonella species* の分布が異なることを明らかにしている。また、未分類である 23 菌種を系統的に分類し、近似する菌種を同定している。最終試験では論文の内容を踏まえ、本研究の持つ生物学的な意味、本研究の手法、得られた結果の解釈および統計学的手法などについて質問を行い、適切な回答を得た。これらの結果から十分な学力を有するものと判断される。